

平成 28 年度 第 2 回滋賀県原子力防災専門会議概要

滋賀県防災危機管理局原子力防災室

I 日 時 平成 28 年 10 月 19 日（水）午後 4 時 30 分から午後 5 時まで

II 場 所 高島市観光物産プラザ 2-A 会議室

III 出席者 別添名簿参照

IV 内 容

1 開会

（１）西川防災危機管理監挨拶

委員の皆さま、ありがとうございます。御覧いただきましたとおり、大飯原発の UPZ は今日見ていただいた集落となっております。市街地と違って、山間部の、孤立時の避難計画が必要なところでございます。今日見ていただいたところを含めまして御議論いただき、御感想もいただきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

（２）議事

○司会

本日の配付資料でございますが、次第の一番下でございますので、確認いただきまして、不足するものがございましたら係の者に申し付けていただきたいと思います。

続きまして、今日の委員の出席状況を確認させていただきたいと思います。牧座長および谷口委員におかれましては、所用により欠席となっております。ですので、設置要綱に基づき、会議の進行を座長代理の竹田先生にお願いしたいと思います。竹田先生、よろしくお願いします。

2 議事

○竹田座長代理

それでは、お手元の次第に従いまして議事を進めさせていただきます。会議の終了時刻は午後 5 時を予定しております。短い時間ですが、また、現地調査で皆さんお疲れのところと思いますが、時間厳守ということでよろしくお願いします。

それでは、議題の、「大飯発電所 UPZ 避難措置の考え方について」ということで、事務局から説明をお願いします。

○事務局

資料 1 により説明

○竹田座長代理

それでは、資料 1 に従いまして、さらに、本日、現地調査をしていただきましたの

で、それを踏まえて御質問あるいは確認したい事項がございましたら発言をよろしく願います。

各山間部の集落それぞれに特色ある、それぞれに対する対策が必要だろうと思われませんが、本日現地調査をしていただいて、それぞれの地区に対する感想も含めて御質問あると思います。よろしく願います。

八木委員、よろしく願います。

○八木委員

どう避難させるかというのは非常に大事だと思いますが、それ以上に大きなポイントは、PAZ だけが避難し、そもそも滋賀県では避難が必要ないときに、屋内退避のようなかたちでとどまっている時間帯にどのような対応を取るのか具体的に考えていくということがあります。それぞれの小学校にとどまっている間に、その線量が分からないという状況は避けるべきだと思うので、モニタリングポストの設置を要望していくというのもあります。また、要望しても設置できていない間のタイムラグをどうするかという課題もある。簡易のものでも、それぞれの場所で、正確な線量でなくとも増減が見えるようなものを置くなどの措置を早めをお願いできればと思います。

少々脱線になりますが、学校施設であれば、日常的に学校教育の中で使って、正確な線量というより、日頃どれくらいの変動があつて、その変動値と比較して、その時にどう変動しているかというだけでも情報としてあつたらよいのではないかと、というのが一番感じたところです。

○竹田座長代理

ありがとうございます。八木委員から意見が出ましたが、いかがでしょうか。私もそのように感じています。

○島田委員

私も同じように考えました。一部、コンクリートの退避施設が無いところで集会所もありますし、伺ったところによると、高齢者の世帯や、子どもさんがいる世帯などいろいろあり、屋内退避の事態が生じたときに、判断がすごく大事になると思います。そのとき、八木委員がおっしゃったように、線量データの把握が必要になると思います。オフィシャルではなく、どれだけか掴むだけでも判断が違ふと思いますし、地区によっていろいろな事情があつて、退避の仕方や、その後ヘリコプターで行くかどうかの判断などありますので、事前に、こういう場合にはこうしておくべきとか、連絡体制をどうするか、あまりがんじがらめに決めるのも混乱を招くかもしれませんが、ある程度場面を想定しておいて、連絡だけの訓練でもした方がよいと思います。準備と判断基準と判断する人を決めておかないと、実際に避難する事態に陥ったときに混乱するのではないかと感じました。お聞きしたところ、この辺りの世帯は、既に自然災害に対しても孤立する可能性を認識されているということですので、それに加えて、屋内退避の場合についてのシミュレーションというか、住民の方々に心づもりをしておいていただいたらよいと思います。また、木造家屋が結構あるので、屋内退避した

ときにどのように効果があるのか、木造住宅の場合も、茅葺きの家もございましたので、科学的な知見を収集して住民にお知らせし、また、退避等を判断する県の防災担当も知見を収集しておいた方が良いのではないかと感じました。

○竹田座長代理

どうもありがとうございます。では高橋委員。

○高橋委員

私も、その場の線量をきちんと把握して、それが伝わるということが重要だと考えております。災害対策指針では屋内退避と避難ということになっているのですが、今日調査したような場所では、特に、避難集合場所の位置付けが重要となるのではないかと。そこで線量を測るということになりますけれども、以前、この専門会議でもありましたとおり、複合災害で家がつぶれる可能性があるといった場合も考えられるかと思えます。そういう際に、避難集合場所が拠点となって動くことが重要になると思えます。また、全体的に、そこに集合するエリアが、世帯数や人数が少なくても、エリアが非常に広いことが特徴になると思えます。ですので、避難するといった場合も、あらかじめそこに集まっておくことが、速やかな避難に必要ななると思えます。単なる避難集合場所という位置付けではなく、屋内退避が確実にできる場所としての位置付けをされるのがいいと思えます。

○竹田座長代理

それでは、遠藤委員よろしく申し上げます。

○遠藤委員

今日、現地を調査して勉強になり、ありがとうございます。冬の雪が多いことに驚きました。地図上、あの方向で雪が多いとなりますと、滋賀県内で一番放射線量が高い場所になるのではないかと気がして仕方ありません。可能性ですけどね。雪と同じように放射性物質が落ちてきますので、滋賀県内で一番高い可能性があると思うのです。屋内退避する、あるいは逃げるにせよ、放射線量が基本になりますので、できれば線量測定用の固定のモニタリングポストがあった方がよいという気がします。現地は琵琶湖の水源でもあります。線量計があっても、いつも使っていなかったら、急に測れと言われても測れるものではありませんので、予算の都合がつけばですけども、固定のモニタリングポストがよいのではないかと思います。もう一つ、高島市総合防災マップでも、「なるべく早めに避難しましょう」と書いてあります。一般的にはそれで正しいのですが、原発事故の際「逃げずに家に居ましょう」という屋内退避はなかなか納得できないというか、逃げたくなると思えます。常日頃から住民の方に丁寧に説明して、この線量なら体に心配ないです。先に子どもさんだけ避難してくださいというのを、常日頃から住民に教育を繰り返すのが良いと思えます。子どもの数が少ないですから、どちらかと言えばやりやすいかと思います。

○竹田座長代理

次、三澤先生。

○三澤委員

本日は現場を見させていただきまして、思った以上に道が狭いということに驚いたところでございます。また、比良山系はもっと高い山が連なって、向こうからの風を遮っていると思っていたのですが、現場を見て、思った以上にひらけていて、向こうからの風は流れてくるのではないかと思います。逃げる経路として、朽木西小学校から、南に行ってからこちらに戻るという経路があったのですが、現実的に考えて、南に下がって北に戻ってくるというのは、住民の方の考えとすると、避けたいルートではないかと思っております。京都市左京区久多地区は大飯原発のUPZに入っておりますので、原子力に対する防災に意識を持っている地区であります。難しいところはあると思いますが、京都と連携して南に逃げるルートを作れないか感じたところでございます。また、避難と言いますと、福井から来るルートもあるかと思います。道が狭いながら、こちらに来る道が2本あると伺いまして、福井からも人が来たということを考えますと、混乱すると感じました。福井県との連携も非常に重要になってくるのではないかと思います。

○竹田座長代理

ありがとうございました。八木先生から始まって、線量を拠点で測る、固定、線量計、モニタリングポストを山村の集落に備えたらいいのではないかと、判断基準という話もございました。非常に大事なことだと思います。普通の場合ですと、避難経路、集合場所に行けたとしても、そこから、それで線量率が高い場合の避難です。その場合の避難経路の確保で、通常の場合は雪でも何とかかなりそうと皆さんから聞きました。原子力災害が起こるにはいろんな原因があると思いますが、地震の場合に除雪ができるのか心配です。特に、今日行かせていただきました朽木西小学校周辺は狭い道路ですので、そこらへんが行けるのかどうか。また、三澤先生がおっしゃられたとおり、他の府県との連携といいですか、滋賀県の中は良いかもしれませんが、北の福井県から来る方もいるかもしれない。さらに、京都の南の方に行けるバスというのも、滋賀県として他の県と連携する場があるのかお聞きしたい。

○事務局

ございます。県の広域避難計画では、まずは市内避難、それで駄目なら県内避難として大津市に避難いただくこととなります。それが駄目な場合は大阪府または和歌山県へ逃げる計画となっております。

除雪については、あの道路しかないので止まることはほとんどなく、ほぼ完璧に除雪がされる。今日も停まっていたけど、除雪車が2台置いてあります。あの道路が止まるということは孤立するということとイコールですので、除雪は止まることはない。

○竹田座長代理

ぜひ、大地震が起こった時も機能するように準備をよろしくお願いします。遠藤委員からは、離れた山村の集合場所付近にモニタリングポストを設置してはとの意見だがいかがですか。私もそう思っている。

○事務局

この点につきましても先生方皆様からいただいております、また、八木先生から固定ポストができるまでの間のことを考えるように御指摘いただきました。私どもも実測値に基づいて避難することを基本としているので、この地域で判断が必要なところでデータが取れないと意味が無いと思っております。可搬型モニタリングポストやサーベイメータ等装備がございますので、御指摘をしっかりと受け止めて、対応するよう頑張っていきます。固定型ポストについても内部で議論しているのですが、遠いところを毎回測定しに行くわけにはいかないところは固定型ポストを設置して、しっかり取っておくことも重要であると内部で協議しております。今後さらに防災対策を進めていきます。

○八木委員

前から同じことを申し上げていますが、今回改めて思ったところで、原子力災害はいろんな特殊性があるのですが、地震災害は最悪を備えていれば、その手前に備えたことになります。震度7に備えていれば、震度5などにも対応できる。原子力災害の避難を考えると、最悪の場合を考えて避難に備えることと、PAZ だけが避難で、屋内退避で良いという状況に備えることは全く位相が違うということが伝わりにくいことが特殊性であると改めて思ったところです。実は、訓練は最大のリスクコミュニケーションになる。住民の方から見ると、一番その問題について具体的に動く情報が入るのは訓練の場面が多くて、訓練が毎回避難というパターンで動いていると、どうしても、避難するものだということを、訓練を通じて、教育じゃないですけども、そういう振る舞いを強化してしまうことになります。この観点からは、屋内退避の訓練、自分たちがここで屋内退避をしているときに福井県の人が目の前を歩いて遠くに行くことがあり得ることも含めた訓練がないと、住民の方たちに避難するものだという情報ばかりが入ってしまって、これが今後の検討課題だと改めて思ったところです。

○竹田座長代理

どうもありがとうございました。三澤先生が調査の時に言われたと思いますが、各地域で放射線量の程度が違うので、情報伝達が大事ではないかと言われていたと思うが、どういうふうに情報伝達をするか御意見ございましたらお願いします。

○三澤委員

線量がどこの地区でどうなっているか一元的に管理して、その情報を地区にフィードバックするシステムが必要であると思っております、防災無線と、直通の電話があるということでした。それらをどう連絡ツールに活用するか、その電話を使った訓

練を、各地区で、ここはこういう線量ですと、市役所なり、県庁に集めて、そちらに戻して指示をする仕組みを十分備えていくことが大事かと思います。

○竹田座長代理

ありがとうございました。県の方はいかがでしょうか。そういう方針でやっておられると思ってよいでしょうか。

○事務局

今までから、島田先生からも、しっかりと住民の皆さんに情報を伝えるということが重要であり、訓練をするようにと何回も何回も御指摘いただいております。私どももしっかりと受け止めて、対応して参ります。今回の訓練でも衛星無線は使いませんが、消防団の方々に消防車で集落に入っていていただいて情報を周知し、その情報を聞いて、住民の皆さまが避難などの対応をされるという訓練を行います。使えるツールはいろいろ使うよう三澤先生から御指摘いただきました。様々なツールをしっかり使って、いろんな場合に対応できるよう訓練したいと思います。

○竹田座長代理

ぜひ、情報伝達、県から住民の皆さんに対して情報を与える訓練をやってほしいと思います。そのとき、資料にありますとおり、国とか事業者からの情報をうまく取り入れて、効果のある情報を出していくということに関していかがですか。

○事務局

8月に行いました国と3府県合同の訓練でも、テレビ会議システムを活用しまして私どもの部長がオフサイトセンターに入りまして、現地での意思決定機関に参画し、その情報を本県に伝える訓練を行いました。プラントの情報をしっかりと取れるように、日頃からの関係性作りを含めて進めていきたいと感じております。

○竹田座長代理

ありがとうございます。ぜひ準備のほど、よろしくお願いします。

○高橋委員

情報伝達のところで、情報が集まって伝えることは重要だと思いますが、受ける側としましては、集落のところで、そのコミュニティが重要になると思います。線量の情報だけがあるときに、それがどういうことなのかということ、について、その中で分かる方がコミュニティの中で伝える仕組みがある程度あった方がいいのではないかと。例えば、今日見させていただいたところだと、朽木西小学校のところであれば、小学校の先生がそういうことをできるのではないかと思います。そうしますと、それぞれのコミュニティの中でそういうことができるような体制を作っておく、コミュニティの中での情報伝達ということのを準備しておくことが必要だと思います。

避難については、特に地震など複合災害の時、普段は皆さんあの道を使っていると

思いますので道が細くても危険が少ないと思いますが、そういうときには道も危なくなっていますし、早く避難しなければと気が急ぐ等、二次災害の可能性がありますので、いかに情報を集落の方あてに分かりやすく伝えられるかということについて、最終的に情報を受ける部分として構築していくことを考えていただきたいと思います。

○竹田座長代理

どうもありがとうございました。今日は活発な議論をしていただき、ありがとうございます。現地調査として見学させていただいて、その場の雰囲気をつかっていたいて議論することが非常に大事だと思いました。本日はこの辺で意見交換を終了させていただきます。

議題はこれで終了しましたが、事務局から連絡有りましたらよろしくお願いします。

○事務局

1点御報告いたします。お手元の資料2、資料3でございますが、8月2日の前回の専門会議で原子力災害に係る屋内退避に関する当面の滋賀県の視点として出させていただきまして、先生方から御意見賜りました。資料2が、いただきました意見の概要を取りまとめたものとそれに対しての対応案として書いてございます。本日は時間ありませんのでしっかりと資料3の説明ができませんが、いただいた御意見を踏まえて修正をしたものです。申し訳ありませんが、資料3を御覧いただき、さらに御意見ございましたらメールでいただけましたらありがたいと思っております。

なお、この資料に関しましては、先生方から専門的見地から御意見いただきました。現在、市町に対しましても行政的見地から御意見いただきますように意見照会を行っているところです。さらに先生方からいただいた御意見と市町からの御意見を踏まえまして、さらにこの資料を良い物にしていきたいと思っております。再度、お気づきの点がございましたら御意見いただきますようお願いいたします。

○竹田座長代理

それでは、進行を事務局にお返しします。

○事務局

本日の意見につきましては事務局で整理し、内容を確認していただいた上でホームページに掲載したいと思います。事務局からは以上です。

○司会

以上をもちまして第2回滋賀県原子力防災専門会議を終了します。